

# 摘 録

矢部長克及長尾巧

日本下部白堊紀に出るプレカブ

ロチナ新屬

(東北帝大理科報告地質學九卷一號二十一頁以下)

*Horiopteuria yaegashii* Yehara (初は江原氏によつて

*Plagioplyctus* を考へられてゐたが後に同氏がホリオプテ

ウラ屬に編入した。一見なるほゞホリオプテウラに似てゐる

が嚴密には異つてゐる。故に此を *Præcaprotina yaegashii*

(Yehara) を改名する。(横山)

矢部長克及半澤正四郎

日本のオルビトリナを含め

る岩石の地質時代 (同上、同號十三頁より)

日本にてオルビトリナを含む岩石の分布は(一)石狩空知川下

流、(二)陸中下閉伊郡宮古の白雲組地方、(三)阿波中郡羽之

浦、及(四)土佐物部川谷の笹である。

*Orbitolina discoidea-conoidea* var. *ezensis* nov. は(一)下

アノモン介層に出(二)では茂師砂岩に稀にある。*O. japonica*

nov. は(一)で前亞種の下位に澤山にある。本種の變種

*Miyakoensis* は(二)の平井賀砂岩にある。*O. planocorvexa*

nov. は(一)に多し。オルビトリナ砂岩中 *O. Shikokuensis*

nov. は(三)に出る。何れの種も地質時代の詳しい相關には有

効でない。第一の變種の種はアプティアンのもの。第二のヤ

ホニカ及其變種は *O. scutum* と近くて同時代だらうが後者

のボルネオに於ける層序上の位置未定である。北海道の方は他の化石上の事實からも一致するのでアプティアンとして差支なくしたがつて宮古の平井賀砂岩オルビトリナ砂岩はアプティアン上部とゴールトにまたがると思はる。羽之浦のものは明かに此よりも古い。(横山)

## 新著紹介

### ○地質學通論

理學士 森下正信著 菊版本文四三四頁

十五年九月 發行所東京市外西大久保 古今書院

定價參圓六拾錢

新しい研究を取り入れた地質學の手頃の本は我國に多くない。著者は松山高等學校での講義を整理して此の一書を編んだ。本書の目的とする所は中等教員檢定受験者や、高等專門學校や其他技術者の參考に資する爲めである。章を分つ二十八、九章までは火山以外の地質作用を説いてあるがよく近代の地形學を錯綜させた點に於て殊に地理愛好者又は地理檢定受験者を益する所が少なくない。第十章より第十八章までは火山と共に水成、火成、變成の岩類を論じ、其の岩漿の一章の如きは邦文書では今まで書かれなかつた最近の物理化學的研究の總括をして居る。第十九章乃至第二十一章は地殻の運動と地層の關係を述べてあるが、特に地震についての一章を缺いて居るのは日本の地質學書としては淋しい感じを與へ